# 妙泉寺便り

**第１１号**
発行所：本覚山妙泉寺
岡山市南区古新田633
TEL：086-282-0001
FAX：086-282-7602
URL：http://park19.wakwak.com/~myousenzi/

しゅうざんじょううんれいじんたいさい

## 秋山自雲霊神大祭

**平成二十八年八月一日（月）**
**十九時より**
**本堂にて盛運祈願祭**
**二十時より**
**境内にて秋山自雲霊神大祭**

毎年恒例の**「秋山自雲霊神大祭」**が近づいて参りました。

元々は悪質な痔病を患い、四十五歳という若さで亡くなられた「秋山自雲居士」を偲ぶ法要でしたが、現在では古新田を代表する「夏祭り」として地域に定着しています。

本年は八月一日（月）の十九時より、本堂にて「盛運祈願祭」を行い、その後、境内の自雲堂前へと場所を移し「秋山自雲霊神大祭」を行います。

その際には**修法師によるお加持がありますので、皆様が今年の暑い夏も健康で過ごされますよう祈願します。是非ともお受け下さい。**

そして本年は「かき氷」や「金魚すくい」「ヨーヨー釣り」の他に「たこ焼き」と「焼き鳥」の移動販売車も出店予定です。

是非ご家族お揃いで、またご近所お誘い合わせの上、当山までお参り下さい。

**※例年通り、小学生以上のお子様には行灯の習字をお願い致します。**

**行灯（あんどん）を出されたお子様にはもれなく、後日お菓子の詰め合わせをプレゼント致しますので、皆様よろしくお願い致します。**

尚、七月三〇日（土）が清掃奉仕となりますので、婦人部の方はご参加のほど、よろしくお願い致します。

## お盆を迎えるにあたり

もうすぐお盆です。当山では八月一日より二週間かけて、皆様のご自宅にございます仏壇前にて「読経供養」へ伺います。

宗派や地域によってそれぞれ違いはありますが、岡山では床の間に祭壇を設け、盆提灯や六角灯籠等を飾り、中には庭に精霊棚を作る所もあるようです。

また、故人の霊魂がこの世とあの世を行き来するための乗り物として、精霊馬と呼ばれるキュウリやナスで作る動物を用意します。足に見立てた割り箸などを差し込み、馬と牛として祭壇に供物と共に置きます。

キュウリは足の速い馬に見立てられ、あの世から早く家に戻って来るように。そしてナスは歩みの遅い牛に見立てられ、この世からあの世に帰るのが少しでも遅くなるように、また「供物を牛に乗せてあの世へと持ち帰ってもらう。」との願いも込められています。

故人の四十九日法要が終わってから最初に迎えるお盆を初盆（はつぼん）や新盆（しんぼん）等と呼び、特に手厚く供養する風習があります。

これも宗派や地方によって異なりますが、当山ではお寺から初盆のお宅に「初盆提灯」を送り、仏壇もしくは祭壇の脇に飾ることが習慣となっています。

そして盆施餓鬼に合同で供養致しますので、お寺からお届けしました初盆提灯を、八月五日までに当山へお持ち下さい。

**※盆経のお知らせは、各地区の世話人様を通じてご連絡します。**

**地区外の皆様にはお寺から早めにお知らせします。**

## 私たちの周りの仏教語

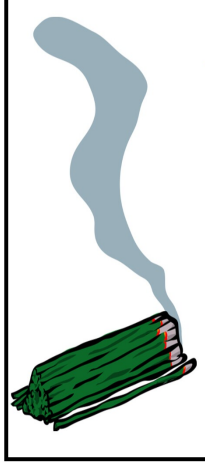
### 「がたぴし」

「がたぴし」と聞くと、「締りの悪い扉がガタガタする音」かと思いきや、何と仏教語だったのです。漢字では**「我他彼此」**と書きます。

我（自分）と他（他人）、彼（安穏な世界）と此（私たちの住む迷い多き世界）と相反して、同時には成り立たないものを並べた言葉で、物事が対立して上手くいかない様子を現わしています。

仏教では「我」は曲者です。「我を張る」「我が強い」の「ガ」で、私たちの苦しみの根源はこの「自分のもの」という意識にあります。

まもなくお盆がやって来ます。お盆を迎えるにあたり、最も大事なことは「自分が」という意識を抑え、相手を思いやる心を持って行動することが、安穏な世界へと渡るための修行へと繋がるのです。



# 熊本大震災復興支援ボランティア

五月九日（月）に副住職が所属しております「日蓮宗岡山立正青年会」の有志五名で、熊本市にて震災復興支援ボランティアを行って参りました。

前日の夜に熊本に入った一行は、熊本市内の本妙寺境内地にあります「熊本県宗務所」に宿をお借りしましたが、深夜に震度二程度の余震が数回熊本市内を襲い、眠れない夜となりました。

九日早朝より本妙寺様にて、床の間に安置されていました仏像や掛け軸、壺等の装飾品を同寺の安全な会館へと運び込む作業を行いました。

次いで室内に散乱した、はがれ落ちた壁や瓦礫を砕いて土嚢袋に詰めた後、ゴミ捨て場へと運ぶ撤去作業へ。更に境内地に散乱した瓦を紐で束ねて一か所に集める撤去作業を行いました。

また、参道には倒れた仁王像（写真①）や、今にも崩れそうな平和燈（写真②）、壊れた休憩所等々も見受けられ、震災当初の凄惨さを見せつけられました。

昼食をはさみ、午後からは本妙寺様より徒歩三分の場所にあります智運院様にて、境内地に散乱した瓦の撤去作業と、倒壊した墓地の整理を行いましたが、墓地の倒壊は想像以上に酷く（写真③）中には骨壺がむき出しになっている箇所も見受けられました。

写真①

写真②

そしてまた「写真④」をご覧になって頂ければ分かると思いますが、本堂前は瓦のみならず、屋根ごと落下しており、山田義晴住職より「大変危険ですので、素人は決して手を出さないで下さい。」とのことでした。

写真③

写真④

その後、荷物の運搬等を行いましたが、同寺の位牌堂には震災によって倒れましたが、奇跡的に無事であった「観音様（写真⑤）」のお像が安置されており、ほぼ無傷の観音様のお姿は、一同感慨深いものがありました。

この度は有志五名にて作業を行いましたが、復興には途方もない時間と労力が掛かります。今回の私たち「日蓮宗岡山立正青年会」の活動が、熊本の一日も早い復興に繋がることを願わずにはいられませんでした。

写真⑤

岡山県の日蓮宗各寺院では引き続き「熊本大震災復興支援」の義捐金を受け付けております。

実際に震災から一週間後の四月二一日（水）と二三日（金）には岡山の日蓮宗僧侶有志にて、ビックカメラ前とイオンモール岡山前にて募金活動を行いました。

現在ではボランティアの受け入れも徐々に減少していますが、ボランティアを志す方々は、まだまだ大勢いらっしゃいます。

今後、私たちに出来ることは限られているかもしれませんが、こうした募金活動も、復興の一助に繋がるのではないでしょうか。

# 岡山立正青年会作「お経本」「ＣＤ」

**日蓮宗信行要典**
**【三〇〇円】**
**日蓮宗のお経ＣＤ**
**【一，〇〇〇円】**

岡山には、二〇代前半から四〇歳までの若い僧侶で構成された「日蓮宗岡山立正青年会（以下・青年会）」という組織があります。現在、副住職は三三歳ですので、中間管理職的な年齢になりますねぇ（笑）

その青年会の僧侶によって作成されました「お経本」と「ＣＤ」を当山でも販売しておりますので、皆様のご修行はもちろん、若い世代へと教えを残していくためにも、是非いかがでしょうか。

また「行衣」と「ご朱印帳」も当山にて取り扱っております。

# 編集後記

先日、愛媛より友人が岡山へと遊びに来たので、岡山のＢ級グルメ「豚かば丼」を頂いた後、倉敷美観地区を案内しました。

久しぶりに訪れた美観地区は相変わらずの素敵な街並みではありましたが、驚いたのは「猫カフェ」が出来ていたことでした。

元々、動物好きな友人と私は、直ぐにチケットを購入し入店しましたが、そのチケットでなんと隣の「フクロウの森」にも入場可能だったのです。

今回は倉敷の街並みはもちろん、可愛い猫とフクロウ達に癒された一日となりました。

こういった機会がないと地元の観光地には中々行かないものですが、「地元の観光地を訪れてみると新しい発見があるものだなあ。」と感じました。

今度は岡山城や後楽園周辺を訪れてみるのも良いかもしれませんね。